平成 27 年 1 月 22 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1　日　　時　平成 27 年 1 月 22 日（木曜日）

午後 2 時 45 分から午後 4 時 10 分まで

2　場　　所　さいわいプラザ　4 階　教育委員会会議室

3　出席委員

委員長　大橋　岑生　　委　員　羽賀　友信　　委　員　中村　美和

委　員　青柳　由美子　　教育長　加藤　孝博

4　職務のため出席した者

教育部長	佐藤　伸吉	子育て支援部長	若月　和浩
教育総務課長	武樋　正隆	教育施設課長	中村　仁
学務課長	田村　　均	学校教育課長	竹内　正浩
子ども家庭課長	波多　文子	保育課長	栗林　洋子
中央公民館長	佐藤　　実	中央図書館長	金垣　孝二
科学博物館長補佐	村上　昭夫	学校教育課主幹兼管理指導主事	笠原　　徹
学校教育課主幹兼管理指導主事	山之内方史	学校教育課主幹兼管理指導主事	宮　　宏之

5　事務のため出席した者

教育総務課長補佐	茂田井裕子	教育総務課庶務係長	水内　智憲
教育総務課庶務係	大橋　悠子		

6　議事日程

日程	議案番号	案　　件
1		会議録署名委員について
2		議席の指定
3	第１号	平成 27 年度　全国学力・学習状況調査への参加について

7　会議の経過

（大橋委員長）　これより教育委員会１月定例会を開会する。

◇日程第１　会議録署名委員について

（大橋委員長）　日程第１　会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第２項の規定により、羽賀委員及び青柳委員を指名する。

◇日程第２　議席の指定

（大橋委員長）　日程第２　議席の指定を行う。議席の指定については会議規則第７条の規定により委員長が指定する。現在着席している席を指定する。

◇ 日程第３　議案第１号　平成 27 年度　全国学力･学習状況調査への参加について

（大橋委員長）　日程第３　平成 27 年度　全国学力・学習状況調査への参加についてを議題とする。事務局に説明を求める。

（竹内学校教育課長）　市立小中学校の児童生徒の学力実態等を明らかにすることにより、その結果を学校における児童生徒への指導の充実、学習状況の改善等に生かすため、文部科学省が実施する平成 27 年度全国学力・学習状況調査に長岡市教育

委員会として参加することを審議いただきたい。文部科学省の平成 27 年度全国学力・学習状況調査に関する実施要領の中からいくつか抜粋し説明する。調査対象については、国・公・私立学校の指定する学年の原則として全児童生徒を対象とする。小学校調査については小学校第６学年、特別支援学校小学部第６学年、中学校調査については中学校第３学年、中等教育学校第３学年、特別支援学校中等部第３学年の生徒を対象とする。長岡市では、実施要領の定めに該当する特別支援学校等の児童生徒は調査対象としないこととし、小中学校の普通学級の該当学年を対象とすることとする。続いて、調査事項については、小学校調査は、国語、算数及び理科とし、中学校調査は、国語、数学及び理科とする。その他に、調査対象の児童生徒と各学校に対する質問紙調査も実施される。児童生徒に対する調査日時は、平成 27 年４月 21 日である。学校に対する質問紙調査は平成 27 年４月に実施する。調査結果の取扱いに関する配慮事項では、「調査結果の公表に関しては、教育委員会や学校が、保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要である一方、調査により測定できるのは学力の特定の一部分であること、学校における教育活動の一側面であることなどを踏まえるとともに、序列化や過度な競争が生じないようにするなど教育上の効果や影響等に十分配慮することが重要である」と記載されており、長岡市もこれに基づき調査結果を取り扱う。教育委員会及び学校による調査結果の公表については、「当該市町村における公立学校全体の結果について、それぞれの判断において、公表することは可能であること」とされている。長岡市はこれまでは公表しておらず、今後も公表しないこととしたい。以上、よろしく審議願いたい。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　先般、平成 26 年度　全国学力・学習状況調査の結果について話題となった。平成 27 年度調査を受けた後も、この結果を十分に分析し、学校で生かされることを希望する。

（加藤教育長）　平成 26 年度調査との変更点はあるか。

（竹内学校教育課長）　平成 26 年度は、国語・算数、又は国語・数学だけであったが、平成 27 年度は理科も実施される点である。

（加藤教育長）　今現在で平成 27 年４月 21 日に学校行事等があり、調査を受けられない予定の学校はあるか。

（竹内教育課長）　今現在は無い。平成 26 年度は修学旅行のために調査日を変えて実施した学校が１校あった。この学校の結果は、集計の中には反映されていない。

（青柳委員）　理科は「知識」問題と「活用」問題を一体的に問うとあるが、調査結果の分析の際には「知識」問題と「活用」問題に分け分析を行うというのは教科の特徴からなのか。

（宮学校教育課主幹兼管理指導主事）　これまでの調査では、算数・数学・国語などについてはＡ問題、Ｂ問題と分かれて調査が行われていたが、理科についてはそのような分け方はせず、総合的に出題されていることからこのようになっていると思われる。

（大橋委員長）　他に質疑、意見がないようなので、これより採決に移る。本件は、原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長）　異議なしと認める。よって、本件は原案のとおり決定した。

◇ 12 月議会における教育委員会関係の質問事項について

（大橋委員長）　本日の議案の審議は終了する。次に協議報告事項に入る。報告事項の 12 月議会における教育委員会関係の質問事項について、事務局の説明を求める。

（佐藤教育部長）　12 月議会の一般質問の答弁を説明する。笠井議員から新年度予算編成について質問があった。総合支援学校のグラウンド・屋内運動場整備の今後の計画については、今年度中に用地取得が終わり、来年度以降グラウンドの造成、次いで屋内運動場の建設に着手する計画であると答弁した。次に、第３福島江踏切の歩道拡幅等について、長岡市の通学路の安全対策に関しての取り組み状況について質問を受けた。これについては、平成 24 年度に教育委員会、警察、道路管理者の３者による合同一斉点検を実施し、それ以降関係機関が連携して安全対策を協議しながら進めていると答弁した。

（若月子育て支援部長）　笠井議員から発達障害児の早期発見と早期療育に向けた５歳児健診の必要性に対する取り組みについての質問があった。長岡市では、平成 20 年度から「すこやか応援チーム」が保育園等を巡回し、３歳から継続的に支援

を行っていると答弁した。

（佐藤教育部長）　藤井議員から教育について質問を受けた。１つ目は、教育現場の負担を軽減し地域との交流を促進させるための地域コーディネーター及び地域教育協議会の設置についての質問である。これについて、長岡市では、地域コーディネーターや地域教育協議会等は設けていないが、既に地域との協力関係が有効に機能しており、今後も既存の地域組織を基盤に連携して取り組んでいくと答弁した。２つ目は、「従軍慰安婦」について、国際的に非難を受けている部分はねつ造であることが明らかになってきたが、国際人を育てる上でもきちんと子どもたちに教えるべきではないかという趣旨の質問である。これについては、学習指導要領の指導内容及び長岡市で採用している教科書ともに記載は無く、小中学校の段階で取り上げることは配慮を要するため、発達段階を考慮して指導を行いたいと答弁した。３つ目に、読み書きそろばんに関して落ちこぼれをなくすために、教師の負担を増やさない範囲で、民間の塾等が導入しているような工夫を取り入れるべきではないかという質問である。これについて、実際に行っている少人数指導、習熟度別指導、ティームティーチング等の指導形態の工夫、教育補助員の配置などで、基礎学力の定着を図っていると答弁した。次に、杉本議員からは、小中学校統合問題について長岡市の考えを伺いたいと質問があった。これについて、長岡市の統廃合の方針は、行政が一方的に進めるのではなく、保護者と地域の意向を十分尊重しながら取り組んでいくべきものであると答弁した。次に、中村議員からは、今後の図書館について質問があった。電子図書の導入について質問があったが、現在全国で約 30 か所の図書館で導入している。しかし電子書籍のタイトル数が少なく、長岡市としてはすぐ導入するのではなく、電子書籍の普及の状況を見て、導入を検討する。現在は調査研究段階であると答弁した。また、中村議員からは、児童生徒の読書離れの対策として、読書通帳を導入したらどうかという質問があった。読書通帳とは、預貯金通帳のようなもので、図書館で借りた本のタイトルが印字される、あるいはシールを貼るというものである。これは子ども達にとって読書の動機付けになるため、導入を検討したいと答弁した。

（若月子育て支援部長）　関議員からは４月から始まる子育て支援の新制度について質問があった。新制度の活用についての市の方針を問われたので、消費税の増税が

先送りされたものの、子育て支援の新制度については、国は準備を進めており、長岡市もこれまでの成果を活かして展開していくと答弁した。次に、子ども・子育て支援新制度施行における保育園等の認定状況についての問いに対しては、必ずしも希望している保育園ではないが、全員を受け入れられることになっていると答弁した。次に保育士の確保についての問いには、再就職セミナーや研修会を通じて積極的に行い、また、今回任期付保育士を長岡市で募集、現在試験を行っており、人数も確保できる見込みであると答弁した。次に、今後の子育て施策の方向性を問われたので、これからも個々のニーズに寄り添い、次代の親になる世代に対し、親になる喜び、子育ての楽しさを伝えていきたいと答弁した。次に、次期長岡市子育て応援プランの考え方や目標設定についての質問では、長岡市はみんなで子育てをするという視点で行政サービスの量だけでなく質の向上を目標とし、子育て世代の満足度を高めていきたいと答弁した。次に、木島議員からは子ども・子育て支援新制度と保育について質問があった。公立保育園の民営化について、木島議員は反対の意思を表明した上で説明を求めた。これについて、それぞれの地域の方々や保護者に対し説明会を行ったが、その中で明確な反対意見は無かった。これからも、地域の方々や保護者にはしっかり説明を行いながら進めていくと答弁した。

（佐藤教育部長）　続いて、文教福祉委員会の質問である。木島議員から発達障害について質問があった。１つ目は、就学時健診で、保護者に対してどのように周知しているのかについてである。これについて、就学時健診時に、保護者向けの「家庭教育講座」を開催し、その際に教育委員会で作成したパンフレットにより説明し、相談機関も紹介していると答弁した。２つ目は、入学後の保護者に対しての継続的な周知の取り組みについてである。これについて、担任等が児童の様子を直接、保護者に情報提供をしているが、保護者会等で保護者全体に説明するという学校もあると答弁した。３つ目は、教育関係者に対しての研修等の取り組みについてである。これについて、教育センターでの研修や指導主事による訪問研修について答弁した。次に、関議員からは、学校給食について質問があった。１つ目は、学校では献立作成にあたって、どのような工夫をしているのかについてである。これは、関議員が地元の小学校で給食を試食した際、とても良い内容であったことから、今後も長岡市の給食の取り組みを続けてほしいとの趣旨からである。これについて、旬の食材

や長岡野菜を取り入れ、子どもの興味を引くような工夫をしていると答弁した。2つ目は、適切な給食費の設定についてである。給食費は安価な価格であるが、消費税増税分等の値上げが必要な場合には反映させるべきではないかという趣旨の質問であった。これについて、物価や経済情勢の変化も踏まえて適切な給食費を負担してもらっていると答弁した。関議員からは老朽化した互尊文庫の建て替えについても質問があった。表町東地区の再開発が検討されており、互尊文庫の移転について、議会でも取り上げられていることを踏まえた質問である。利用者が求める新たなサービスを提供するため、どういった機能を担わせたいのかという趣旨の質問については、カフェ的な機能を持った多機能空間を作り、既存の図書館とは異なる新たな視点からの検討を行いたいと答弁した。また、新しいニーズという点で、小中高生のニーズをどのように捉えているか、また、納税者という視点で、一般市民のニーズをどのように掘り起こしていくかについて質問があった。これについて、実態として塾待ちの小中高生が多い状況から、新しい図書館には学習室などの設備が必要と考えていると答弁した。次に中村議員からは、イングリッシュアカデミーについて質問があった。内容は、大阪府和泉市では「イズミシティ　イングリッシュキャンプ」というものを昨年から1泊2日で行っているが、長岡市も同様の取り組みはあるかという質問である。これについて、長岡市は2泊3日の「中学生イングリッシュアカデミー」を平成10年度から行っており、今年で17回目であると答弁した。

（若月子育て支援部長）　大平議員からは、燕市のひとり親の事件を受けて、ひとり親世帯の現状と子育てのサポートについて質問があった。長岡市では現在148名の子どもの経過を観察中であり、そのうち約3割がひとり親世帯である。この148名については県や保育園、学校等の各関係機関が毎月情報交換を行いながら経過観察を行っている状況であると答弁した。次に、ファミリー・サポート事業の支所地域への広がりや周知の方法、利用料の低減や利用チケットの配布等を考えてはどうかとの質問があった。これについて、直に親と接している母子保健推進員や主任児童委員がより深く悩みを聞ける体制を築いていきたいと答弁した。次に杉本議員からは、保育園、幼稚園児の手話による長岡市歌について質問があった。すばらしい取り組みであるとして、この取り組みの背景やその効果が知りたいとのことである。

これについて、児童の取り組みから保護者からも一緒に覚えたいとの声があり、長岡市全域へ広がりを見せており、今後も引き続きしっかり取り組んでいきたいと答弁した。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に、「少子・高齢対策特別委員会報告について」事務局の説明を求める。

（若月子育て支援部長）　昨年 12 月 18 日に委員会が行われ、委員から様々な意見をいただいた。事務局としては、総じて高い評価を得たと思っている。委員からは事業計画の基本的視点に「子どもの視点」が入っており、その目標像があるのかという質問があった。それにはついては、行政が親を支援し、子育てと仕事との調和を図り、親が子どもと向き合う時間を作れる働き方ができる環境を整えていくことが大切であると考えていると回答した。また、委員からは、次代の親を育てる教育、いのちの教育が大切であるが、学校・家庭との連携をどのようにしていくのかという質問があった。これについては、次代の親育成のために講座を行っており、効果的な取り組みであるので、今後も拡充していくと回答した。さらに、次代の親も大事だが今の親が肝心という委員からの意見もあり、それに対しては、一人ひとりに寄り添った支援をし、親が自信を深めるような講座も行っていくと回答した。最後に、「子育てを応援するまち」から「みんなで子育てするまち」へと踏み込んでいくことは重要な転機であるとして評価をいただき、計画の内容も大変わかりやすいと評価を得た。現在、計画の素案を冊子にし、パブリックコメントを募集している。２月 13 日に開催する子ども・子育て会議で最終案を決定する予定である。２月の定例会でも教育委員から意見をいただきたい。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（青柳委員）　計画素案の 16 ページから 22 ページまでのグラフには分析結果しか記載されておらず、グラフを見れば理解できる内容しか書かれていない。この分析結果からステップアップした考察等の記載がほしい。

（波多子ども家庭課長）　現在修正中である。

（青柳委員）　計画策定のワーキング部会の人数構成はどのようになっているのか。

（若月子育て支援部長）　ワーキング部会の出席者のうち 82 名は教育委員会外の人

である。そこに委員も入り一緒に検討を行ったので 99 人となっている。今後わかりやすいような表記を検討する。

（青柳委員）　承知した。

（大橋委員長）　他に、質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に、「平成 26 年度　文部科学大臣優秀教職員表彰について」事務局の説明を求める。

（宮学校教育課主幹兼管理指導主事）　被表彰者について報告する。今年度は該当者が２名であった。１人目は栖吉中学校　石川智雄教諭、２人目は秋葉中学校　岸美貴養護教諭である。栖吉中学校の石川教諭については、野球部指導において成果を上げたことにより、部活動分野で新潟県教育委員会が推薦したものである。選考基準に記載されている部活動等において、特に顕著な成績を上げた者として表彰された。次に、秋葉中学校の岸養護教諭については、保健室経営等はもちろん、更に生徒の自己肯定感の醸成や不登校解消等に成果を上げ、学校の教育相談体制を整えることに貢献したことで推薦された。選考基準に記載されている生徒指導、進路指導等において、特に顕著な成績を上げた者として表彰された。表彰式については、１月 19 日に東京で行われ、東京藝術大学の宮田亮平学長が記念講演を実施したと聞いている。これに先立ち、新潟県優秀教員表彰もあり、市内からは石川教諭、岸養護教諭を含む５名が表彰された。他の３名は阪之上小学校　矢嶋義宏教諭、栖吉小学校　佐々木潤教諭、希望が丘小学校　遠藤哲也教諭である。この３名は学習指導分野で成果を上げ、表彰を受けたものである。被表彰者については、研修会等の講師、あるいは実践発表等を行ってもらい、長岡市の教職員に広くその活躍を紹介したいと考えている。

（加藤教育長）　新潟県優秀教員表彰では、被表彰者 30 名のうち５名が長岡市の教職員であり、表彰されたのは喜ばしいことである。

（大橋委員長）　表彰された教職員の活躍を広く紹介するだけではなく、教育センターの指導者として活用し、長岡市の教職員の指導力向上に役立てることに力点をおいてほしい。

（大橋委員長）　他に質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に、「平成 26 年度　長岡市の子どもた

ちの体力について」事務局に説明を求める。

（竹内学校教育課長）　今年度も小中学校全児童生徒を対象に調査を行った上で、文部科学省では特に小学５年生と中学２年生を抽出して比較調査している。種目は小中学校ともに８種目である。全国及び県と長岡市との比較では、市内小学５年生については、男女ともに全国の体力データを上回っている。合計点では新潟県男子は全国第２位、新潟県女子は全国第３位である。さらに長岡市男子は合計点で県を上回り、女子もほぼ同じで、全国でもトップクラスの高い体力水準である。県との比較では、男子は握力を除いたすべての種目で県平均を上回っている。女子は、半数の種目で県平均を上回るか同じ結果である。また、一昨年、県平均を下回っていた「シャトルラン」の数値が、昨年に引き続いて男女ともに上回り、持久力の着実な定着が図られている。小学５年生の抽出の結果ではあるが、非常に良い結果が出ていると考えている。次に中学２年生の体力データについては、全国との比較では、女子ボール投げを除き、男女ともにすべての種目で上回っている。合計点で、新潟県男子は全国第３位、新潟県女子は全国第５位であり、長岡市男子は新潟県をも上回っており、長岡市女子は新潟県とほぼ同じ数字である。課題とすれば、女子ボール投げは昨年同様、全国平均、県平均ともに下回る結果となっている。ボール投げは、手の振りだけでなく上体の動きや体重移動、腰の回転等の全身の動きが重要ではないかと分析を進めている。また、どのような運動でこの機能が上げられるかということについて検討していく。普段のボール遊びや、体育の授業で行うドッジボールのようなものがそれに近いのではないかと分析しているが、中学生についてはドッジボールだけでは難しい。しかしながら、全体的には小中学校ともに非常に高い結果を上げているので、各学校の取り組みは着実に進められていると考えている。

（加藤教育長）　調査結果について、単に数字を比べただけの印象があるので、原因と対策まで掘り下げて分析してほしい。

（中村委員）　以前は長座体前屈の数値が低かった時期があったと記憶している。それも今では改善しており、これからも改善のための指導を積極的に行ってほしいと思う。

（加藤教育長）　注目すべきは、運動する子としない子の二極化ではないか。10 年前の夢づくり教育の分析の際にも現れていた。体育の時間は増えているが、中学校

女子の２割は週１時間以内程度しか運動をしないという調査結果も聞いている。

（羽賀委員）　日常生活で運動をしないということか。

（加藤教育長）　現場で体育の授業を時折見ることもある。その授業が終わった後、子どもの体が温まっていないことがあり、絶対的な運動量が足りていないと感じることもある。大粒の汗を流して次の授業に行くということは少なくなっている。

（中村委員）　高校に入って体育が厳しく感じるというのをよく聞く。

（加藤教育長）　跳び箱運動等も、実際跳ぶ回数を重ねても実技はすぐ終わってしまうので実技の回数に対して運動量は少ない。

（大橋委員長）　他に、質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に、中越大震災 10 周年「災害と復興をかたりつぐ」事業実施報告について事務局の説明を求める。

（金垣中央図書館長）　今年度、７・13 水害、中越大震災の発生から 10 年を迎えることから、中央図書館文書資料室が所蔵する被災歴史資料の活用を図り、長岡市の災害と復興の経験・教訓を全国に発信することを目的に事業を行ったので、その報告をする。まず、リレー講演会「災害史に学ぶ」では、のべ 1,342 名の参加があった。今回開催地域は合併した全 11 地域を意識した。災害と復興の経験・教訓はもちろん、支所地域の多様な歴史・自然・民俗を広く知ってもらう良い機会となったと考えている。次に、企画展「災害と復興をかたりつぐ」には、のべ 1,069 名の参加があった。この企画展は歴史資料と災害史と資料救済による取り組みを複合的に展示した全国的に見ても初めての展示会であった。連携した新潟大学からは、新年度には冊子にまとめて、共同刊行しないかと打診があった。展示会にあわせて、10 月 21 日に災害復興文庫を開設した。これと同日付で、国立国会図書館の東日本大震災アーカイブ「ひなぎく」とデータ連携をした。「ひなぎく」には「石坂小学校中越大震災被害状況写真」の項目が表示されているページを掲載している。現在は目録データのみの掲載になっているが、写真資料などは誰もが自由に閲覧可能なオープンデータにできるよう準備している。これらの取り組みについては全国的にも高い評価を得ている。「ひなぎく」との連携には、長岡市の取り組みが評価されたということの他、「ひなぎく」を立ち上げた方が、学生時代に栖吉地域のフィールドワークに参加したという縁があり実現した。今後の課題を踏まえながら平成 27

年度も引き続き取り組みを進めたい。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（加藤教育長）　リレー講演会は、参加した市民が、新潟日報に大変良かったと投書をしており、大変うれしく思った。

（大橋委員長）　この「災害と復興をかたりつぐ」の開場式に出席したが、本当に良い内容で驚いたし、今後も何らかの形で繋げていきたいと思う。

（羽賀委員）　長岡市はこのように資料もきちんと積み上げているし、行動も積み重なって、災害支援体制が確立している。それが「協働型」として全国に紹介された。行政が活動の場を提供し、それを社協が母体とし、その周りに子育て支援の体制等が整備されていき、教育が社会の枠組みと連携して「熱中！感動！夢づくり教育」につながっていくことなのかなと思う。更に活用してもらいたい。

（大橋委員長）　他に、質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。次に、「第 25 回　長岡市馬高・三十稲場遺跡整備活用委員会会議報告について」事務局に説明を求める。

（村上科学博物館長補佐）　会議の内容について報告する。まず、委員長・副委員長の選出が行われた。前回につづき、委員長は小林達雄さん、副委員長には内山弘さんが選出された。平成 26 年度から女性委員の登用ということで、文化財保護審議会委員の星野紀子さんに新たに加わっていただいた。委員から出された主な意見・質問は４つであった。１つ目は、体験学習の内容ということで、「アンギン編み」と「縄文編み」について回答した。２つ目は、大英博物館での展示の経費はどうなるのかというもので、今後の協議の中で、長岡市から支援する形になるのではないかと回答した。３つ目は、馬高縄文館ならではのミュージアムグッズの販売についてだが、現在、縄文土器を使ったグッズ、土偶のミス馬高を使ったグッズがある。今後は火焔土器や土偶の精巧な小さいレプリカを検討してはどうかという話がでているので、今後検討していくと回答した。４つ目は、ゆるキャラについてだが、３つ目と同様検討していくと回答した。次に、平成 27 年度の事業計画について報告がある。１つ目は、馬高・三十稲場遺跡保存会から遠藤沢でホタルを復活させたいという話があり、進めていきたいと考えている。２つ目は、縄文の森の植栽について、特色ある山野草の植栽を考えている。

（大橋委員長）　質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。続いて「附属機関会議報告について」事務局の説明を求める。

（佐藤中央公民館長）　11 月 26 日に開催した第３回社会教育委員会、公民館運営審議会について報告する。委員 17 名、各地域の公民館関係職員含む事務局職員が 15 名参加した。会議の内容としては、研修報告ということで昨年９月から 10 月に各地で開催された研究集会等に委員から参加いただいたので、その報告を受けた。その他には、さいわいプラザに中央公民館が移転して６か月が経ったので、移転後の中央公民館の利用状況や特徴的な講座の報告をした。その中で、地域代表の委員から、公民館で行っている事業について、企画やポスターはどのように決めているのかとの質問があった。これには、長岡地域が様々な新しい取り組みをやっているので他地域でもこの取り組みをしてほしいということが背景にある。これについて、職員も勉強をしながらやっていくと回答した。また、別の委員から地域の公民館職員に要望として出されたものであるが、合併から 10 年が経ち予算の関係も様々あると思うが、各地区の伝統講座を大切にしながらも、新しい企画や運営のあり方を検討してほしいという意見があった。これについて、回答を求められたものではないが、会議の終了後各地域の公民館職員で情報共有をし、講座の持ち方やポスターの作成方法等を勉強していこうという方針を確認した。

（金垣中央図書館長）　昨年 12 月９日に開催した第２回長岡市栃尾美術館協議会について報告する。「平成 26 年度前期事業報告及び平成 26 年度後期事業計画」と「平成 27 年度事業計画（案）について」を議題とした。主な意見としては、平成 26 年度の集客数が前年度を若干下回る見込みであることを報告したこともあり、ＰＲに関する提案がいくつか出された。それを踏まえて、アトリエの有効利用については、今後利用方法に関するチラシを作成し、団体等に周知するとともに、改めて市政だよりでのＰＲを行いたいと回答した。平成 27 年度は開館 20 周年を迎えるので、これらの意見を踏まえ、積極的にＰＲを行っていきたい。

（大橋委員長）　中央公民館長に、各地域にある伝統的な講座のあり方について意見したい。越路公民館では地質学を対象とした講座が非常に人気だと聞いている。そういう素晴らしいものは継続、拡大できるようにしてほしい。各地域でこのような

講座はあると思うので大事にしてほしい。

（佐藤中央公民館長）　伝統あるものは継続していきたいと思うし、地元の要望を汲みながら、見直し・継続を判断して、適切な講座の企画をしていきたい。

（中村委員）　栃尾美術館のアトリエは毎月ほぼ同じグループが使用しているということだが、どのようなグループか。

（金垣中央図書館長）　実際にはアトリエの使用は土日が多く、稼動率としては20%を切るくらいである。場所柄、栃尾地域を中心とする団体、栃尾美術館が行っている講座の利用グループがアトリエを使用することが多く、利用が広がっていない。栃尾美術館のアトリエは、他のアトリエでは使えない火が使えるなど、利用勝手が良い面もある。そこをＰＲして全市に利用を呼びかけたい。

（中村委員）　では、火を使うような講座もやっているのか。

（金垣中央図書館長）　焼き物をやっている。バーナーも使用できる。

（中村委員）　美術に関係ない団体も利用はできるのか。

（金垣中央図書館長）　アトリエが空いていれば、話し合い等で使うことはできる。

（中村委員）　間口を広げると利用者も増えるのではないか。一般の人はアトリエというと、使用が美術活動に限定されていると思いがちだと思う。その辺のＰＲを工夫してはどうか。

（金垣中央図書館館長）　承知した。

（大橋委員長）　他に、質疑、意見はないか。

（大橋委員長）　質疑、意見なしと認める。これをもって報告事項を終了する。

（大橋委員長）　催し案内について、説明を求める。

（村上科学博物館長補佐）　特別展　長岡藩主牧野家ゆかりのお正月展　について案内する。科学博物館の１階企画展示室で今月末まで展示する。お正月らしい飾りやお膳等を展示している。江戸幕府の御用絵師を務めた狩野雅信が描いた三幅対の掛軸がある。中央には七福神の一人で、長寿を授けてくれるという「寿老人」が描かれ、左右には鶴と松竹梅が描かれたおめでたい掛軸である。刀も三振展示している。是非ご覧いただきたい。

（大橋委員長）　他に催し案内、報告事項はないか。

（大橋委員長）　これで本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員